

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104829
法人名	医療法人寛容会
事業所名	グループホーム癒しの森
所在地	鹿児島市岡之原町600番地1 (電話) 099-295-7255
自己評価作成日	令和6年2月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kanyoukai.or.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム癒しの森は、法人理念である「笑顔」「人・思・心」の考えのもと、困っている人を助けたい、それが私たちの原点です。

認知症ケアの専門的な知識や新しい情報等を定期的に行われている勉強会にて共有しスキルアップに努めています。認知症は「よくなる」「できなくなる」などの悪いイメージがありましたが、医学や介護の発達でケア次第では認知症になっても「その人らしい」生活が送れるようになってきております。また、法人内で専門職、多職種が連携することで自宅で過ごしていたところに近い「その人らしい」生活の幅が広がると考えております。

ホームの周りは畑などが広がっており四季折々の野菜やお花が育っております。その過程を散歩などを通して楽しむことができます。コロナ禍で交流自体は出来ていませんが地域の一員としてと馴染みのある場所であるとともに利用者様、ご家族の気持ちに寄り添いながら、いつも笑顔で安心して暮らせるようにお手伝いさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然豊かな岡之原地区に平成18年に開設されており、鹿児島市吉野支所から車で15分ほどの位置である。個人住宅や広い畑地に囲まれ、少し離れて法人母体の医療機関や障がい者施設、自動車や土木関連の事業所、小学校等があり、町内会に加入して地域との円滑な交流が図られている。コロナ禍による自粛を徐々に緩和して、家族や友人との面会や周辺の散歩、買い物、地域の夏祭りや秋祭りへのスタッフとしての協力等に取り組み、住民から寄せられる認知症ケアの相談や施設見学等にも丁寧に対応しているが、ボランティアの受け入れやホームの行事への家族や住民の参加は自粛中である。

法人の理念をホームの理念としており、玄関や各ユニットに掲示して周知を図り、日常的にケアの振り返りや意義の確認、意見交換等を行って理念に沿ったケアに努めている。利用者の尊厳や人格、習慣、想い、生活ペース等を大切に安全で自由なケアに努め、その人らしい生きがいのある暮らしとなるよう趣味や楽しみ事の取り組みも日常的に支援している。利用者及び家族からの意見や要望等にも迅速に協議して改善を図っており、本評価に伴うアンケートの結果でも家族との信頼関係が良好な様子が窺える。

管理者及び職員は、日頃からコミュニケーションに努め気軽に意見を言い合える信頼関係及び協力体制を構築しており、日常の業務の中や定例会等で意見や要望を出し合って運営やサービスの改善を図っている。日常的にケアへの助言指導や研修の実施、休憩時間の確保等に努め、勤務シフトには個人的な事情や有給休暇取得等にも配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。職員の資格取得や外部研修受講に要する経費については法人の助成制度が整備されて、職員の就労意欲向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえて個人を尊重し事業所理念を念頭に置きスタッフ間で常に共有し実践に繋げている	地域密着型サービス事業所の意義を踏まえた理念を玄関や各ユニットに掲示して周知を図り、日常のケアの中や月1回開催の定例会等で理念の確認やケアの振り返り、意見交換等を行って認識を深めている。理念を常に意識し利用者の尊厳や人格、思い、生活ペースを大切にしたケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響でホームのイベントや地域行事などへの参加はできていなかったが少しずつ再開している。岡之原町や下田町の地域の祭りへ参加。	コロナ化による自粛を徐々に緩和して家族や友人とのディルムでの面会や散歩時の挨拶、ドライブによる通院、訪問美容、家族との外出や一時帰宅等を実施し、農産物の差し入れも頂いている。町内会に加入して地域の情報の把握に努め、岡之原地区の夏祭りや下田町の秋祭りにはスタッフとして参加し、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談や施設見学等にはパンフレットやタブレットも活用して丁寧に対応しているが、ホーム内でのイベントへ時の家族や地域住民の参加やボランティアの受け入れは現在も自粛中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	定期的に吉野地区との連絡は行っておらず随時やり取りをしている。認知症や困りごと相談などは電話にて対応を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度はコロナ感染症対策にて施設開催を自粛していたが令和5年5月より再開している。	コロナ禍により書面会議が続いていたが、本年度は利用者、家族代表（2人）、民生委員、町内会長、地域包括相談支援センター等が出席して会議を開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット、感染症対策等の報告や意見交換を行ない委員からは地域の情報等が出されており、高齢者虐待や身体拘束等の研修も実施している。職員は議事録や定例会時に内容を協議して業務やサービスの向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護、高齢者福祉、介護保険の担当者とは日頃よりわからないことなどがあると行政に連絡をとり報告や相談を行っている。	市吉野支所や本所の窓口や電話、メール等で介護保険や各種制度の相談や申請、コロナ禍対応の協議を行うなど日頃から協力関係を築いており、生活保護受給中の利用者には医療券の発行など担当ケースワーカーと密に連携を図っている。市からの情報や研修案内等の把握に努め、リモート研修にも積極的に参加して改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の定例会の中で虐待や身体拘束をしないケアについての勉強会を繰り返し行っている。全ての職員が禁止となる具体的な行為を周知、理解できている。また、事業所内にも掲示してある。尚、身体拘束の事例は無し。	身体拘束や高齢者虐待の研修を定例会の中で実施し、拘束の対象行為や弊害等を共有している。定例会や日頃の業務の中で振り返りや意見交換等を行って拘束の無いケアに努めており、身体拘束適正化の指針を整備し委員会も年4回開催して認識を深めている。スピーチロックや不適切なケアを見つけた時はその都度助言し、不穏な利用者には寄り添いや散歩の同行等で安定を図るなど日常的に改善を図っている。現在、成年後見制度を1人の利用者が活用中で、申請中の利用者もいる。ベッドセンサーの利用（4人が使用中）については、プランに反映させ家族の了解も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に掲示してある。委員会を設けており中心となって定期的に勉強会や個々の振り返りを行っている。日々注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については利用されている入居者様がおられ、ある程度は理解できている。権利擁護に関する制度の理解は不十分である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に重要事項説明書に基づき分かりやすいように説明させていただいている。また、説明内容に不安や疑問点が残らないよう相互で確認しながら一方的にならないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し様々な要望が出せるように工夫している。また、スタッフ全員で周知理解し改善しながら運営に反映させていただいている。ご家族様には広報誌などでも意見を求めている。	日頃から利用者や家族とは気軽に話せる関係作りに努めており、利用者の思いは日常の会話や仕草、サイン等から汲み取り、家族の思いや意見は、面会や電話、運営推進会議、意見箱の設置等で把握している。また、毎月の「癒し便り」で近況を伝え要望を貰うようにしており、出された意見、要望はユニット会議や定例会で協議して改善を図っている。家族会の再開を検討中である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会やユニットミーティング、個々での面談などでスタッフの意見、ご家族からの要望、意見など周知し改善しながら運営に反映させていただいている。	管理者及び職員は日頃からコミュニケーションに努め、忌憚なく意見を言い合える信頼と協力関係を築いている。通常の業務の中や申し送り、定例会等で意見や要望を出し合い、また、必要に応じて個人面談も行っており業務や就労条件等の改善を図っている。管理者は日常的に業務に関する助言や指導、研修を実施し、休憩時間の確保や勤務シフトに有給休暇の取得や個人的な事情も配慮するなど働きやすい職場作りに努めている。資格取得や外部研修受講時に要する経費の助成制度や給与体系が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修などに参加しスキルアップを促している。また、スタッフの意向や適用など相談しながら希望職種の検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会や研修を定期的に行い、また、資格取得に向けた支援では資格取得後の手当の反映、本人の意向を確認しながら活かせる労条件に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野地区のグループホームの集まり「よかど会」に所属しており2ヶ月に1回研修、交流会を行っていたがコロナ禍で現在中止しており必要時電話などで連絡交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にホームの見学をお勧めしている。感染対策を行いながら施設見学を再開し、不安なこと、要望をお聞きしながら安心して利用していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホームの見学をお勧めしている。感染対策を行いながら施設見学を再開し、不安なこと、要望をお聞きしながら安心して利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族の双方の困っていること、不安なこと、要望などの声を聞かせていただきながら安心できる環境づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見や嗜好を尊重しながらコミュニケーションをとっている。また、お互いに支え合う関係を大切に心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	往診時の体調報告を少なくとも月に1回は報告を行っている。また、リモートなどを活用して交流を図っている。また、広報誌などでも状況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接の交流はできなかったが、感染対策を行いながら面会を再開。大事な人とのふれあいができるように努めている。	コロナ感染症が5類に移行したこともあり、それまでの自粛を徐々に緩めて、家族や友人との面会や周辺の散歩、通院、訪問美容、地域の清掃への参加、吉野公園や都市農業センターでのドライブによる花見、家族との動画による交流や外出等に取り組んでいる。家族には「癒しだより」の送付で利用者の状況をコメントや写真で伝え、電話や手紙の取り次ぎも行って関係の継続に努めている。ホームのイベント時の家族や地域の人の参加は現在も自粛中であるが、感染対策に努めながら馴染みの人や場との関わりを増やしたい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や個性を把握しながら、席の配置や距離感、孤立しないようにコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされることがあればサービスが終了しても継続的な関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が意見をはっきりと話される方は把握しやすい、困難な方は生活歴や暮らしの中で思いや意見が把握できるように、また、ご家族にもお聞きしている。	重度化によりコミュニケーションが難しい利用者が数人いるが、対話や寄り添いの中で気持ちを表出できるようなケアで思いを汲み取り、家族の意向も確認しながら自己決定を尊重したその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。利用者が希望する趣味（習字、ギター、テレビ視聴、将棋他）やプランターの水やり、炊事の補助等の取り組みは、心身の状況に配慮しながら個別の支援にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご本人やご家族も交えて今までの生活ぶりをお聞きしている。また、普段の会話の中でも新しく知れたこともスタッフ間で共有し対応させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の過ごし方を尊重している。その中で個々の心身状態を観察、把握しながら必要な情報をスタッフ全員で共有できるようにタブレットなども活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と生活の振り返りや今後の意向などを聞かせていただき、情報収集、モニタリングを行いながら、ご入居者様の生活の質が向上するよう介護計画作成に努めている。尚、ご家族のご意向やご協力が得られないこともある。	利用者や家族の意向を汲み取り、受診時の主治医の指導や毎月のモニタリング、カンファレンス時の職員の意見、日頃のチェック表や記録等を基に習慣や楽しみ事等にも配慮し残存する力を発揮できるように作成している。計画は定期的に見直して更新しているが、利用者の状況に変化が見られた場合は実態に沿って随時変更している。実施状況を各種のチェック表や「施設介護支援経過」等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で本人の希望や望む生活を記録、把握して申し送りなどで情報共有し定例会などで話し合いを行ってより良いサービスにつながるように努めており、ご家族の支援が必要な時はご相談させていただいている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策を行いながら面会を再開。また、外部医療機関への受診など家族の協力を得ながら、現在できることを考え対応している。一部、手紙でのやり取りもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練など地域の町内会に協力体制の依頼を行いながら地域資源を活かす取り組みも再開し、事業所内で今できる行事など実施。一緒に楽しめる工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とも相談しながら、ご本人やご家族の希望される病院での診察を行っている。	各利用者の病歴を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しており、現在は全利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な通院や訪問診療（月2回）が実施され、他科受診は家族と連携して適切な医療を受けており、歯科は訪問診療で対応している。医療連携による看護師の訪問で衛生や健康管理、感染予防対応が行われ、協力医療機関との24時間医療連携の体制も構築されて利用者や家族の安心、信頼に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師と24時間体制で連絡がとれるようになっており適切なアドバイスが受けられるようになっている。また、協力医療機関と連携を図りながら必要な指示、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は状態確認のため相談員と情報の交換を行いながら、本人の退院については医師やご家族と共に決めている。協力医療機関をはじめ入退院支援を行うSWとの連携を心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をくみとりスタッフ全員で話し合いご家族や医療機関と連携を図りチームでの支援できるように努めている。尚、ご本人にとって良い環境とは何なのかということも考え行っている。	重度化や看取りの対応は重要説明の中で指針を整備しており利用開始時に利用者及び家族に説明して同意を貰っている。重度化した時点で主治医や家族、関係者は十分な話し合いを行い、可能な限りのケアをチーム体制で取り組んでいるが、看取りの実施は行っておらず終末期には医療機関での入院治療や特別養護老人ホームへ入所している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルや消防署による救急隊指導による緊急対応訓練を実施し全スタッフが対応できるようにしている。マニュアルは常時閲覧できる場所に保管してある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を実施している。地域との緊急連絡網も作成しており、自然災害マニュアルも作成済みである。立ち合いでの指導が困難な際は書面での指導をお願いしている。	年2回（1回は消防立ち合い）夜間想定を含む火災発生時の通報や避難、消火等の防災訓練を実施し地震や台風災害の自主訓練も行っている。日頃から連絡網や避難場所及び経路を確認し災害事例も話題にする等、防災意識を共有している。災害発生時の飲料水や食料、介護用品等は3日分を備蓄し、BCPの作成は最終段階であり来年度から実施予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、敬意を持ちながらお声かけ、表情、態度、応対に配慮しつつ失礼のない行動をとっている。	個人情報の保護や秘密保持は運営規定や重要事項等に明記され、日頃から人格の尊重やプライバシーを意識して適切なケアに努めている。研修の実施で認識を共有し、日常的に振り返り等も行っており、ホームはプライバシーに配慮した構造になっている。排泄や入浴時の支援は人格や羞恥心、習慣等に配慮した言葉や対応に努めている。情報紙への写真、氏名の掲載や居室入口の氏名表示についても入所時に意向を確認し、利用者に関する台帳類は事務室で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見や表情や反応を見ながら意向を汲み取り自己決定ができるようなお声かけ、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務やスタッフの都合に合わせるのではなく、利用者様の思いやペースに合わせて利用者様本位の生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	気分や状態に合わせて衣類はご本人が選んで着ていただけるように対応している。尚、気温や気候などの助言はさせていただく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のアレルギーや嗜好品、機能を考慮しその方に合ったメニューの提供し食材の下ごしらえやご自分で出来る方には下膳して頂くなど取り組んでいる。	食事は利用者の何よりの楽しみに関心も深いことと常に意識して、栄養バランス、嗜好、季節感、代替食、アレルギー等に配慮し菜園の野菜も活用して調理している。ミキサー食や刻み食など利用者の状態に応じた形態に努め、行事食（おせち、誕生会、敬老会、クリスマス他）や手作りのおやつ（ふかし芋、団子、ホットケーキ他）、握り寿司のテイクアウト、金柑漬け作り等工夫しており、利用者も食材の下処理やテーブル拭き等を楽しみながら一緒に行っている。歯科医による嚥下機能のチェックを受け、口腔体操も実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況は毎日記録させていただいており、水分、食事量が満たない状況の時はご本人の気分や時間帯、嗜好にあった物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科より助言、指導をいただき本人の機能に応じて職員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は一人一人の排泄のリズムや機能を把握しながら安心して排泄へつなげられるように努めている。	利用者毎の排泄パターンをチェック表で把握し、さりげない声掛けや誘導等で昼間は可能な限りトイレで排泄している。夜間のみポータブルトイレ（1人）やリハビリパンツにパットを使用するなど利用者の状態に応じた介護用品やケアの方法をプランにも反映させており、介護用品の消費量の減少等の改善が見られている。植物繊維の多い食材や乳製品、水分の摂取、毎日の運動等に配慮して自然排便に努めているが、状況によっては主治医の指示で下剤を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立での工夫を行いながら水分摂取、食物繊維などの食事面から働きかけや適度な運動。また、排泄リズムの把握なども行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご本人の希望やタイミングに合わせて対応を行っている。また、清潔保持の必要性に納得していただき、清拭などの対応も行う。	基本週3回、個浴での午前中入浴を支援し、シャワー浴や清拭でも保清している。順番や温度、時間、同性介助、好みのシャンプー等は意向に沿って柔軟に対応してゆっくり楽しめるように配慮しており毎日入浴する利用者もいる。入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には時間や介助者の変更、声かけ等を工夫し、清拭や足湯での対応など利用者の意向を確認しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調に合わせて休息を取り入れ、夜間はゆっくり休んでいただけるように適度な日中活動も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用されている薬の目的や副作用について理解できている。また、誤薬が起こらないようにマニュアルを作成し複数での確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴、趣味、嗜好、長所を生かした取り組みをしていただき自信や張りのある生活が送れるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍による活動自粛も徐々に解除しながら実施している。施設の敷地内での散歩など実施。様々なことを工夫しながら不便さを感じないような支援ができるように努めている。	感染予防に取り組みながら外出の機会を徐々に再開しており、外気浴や周辺の散歩、ドライブによる吉野公園や都市農業センターでの花見、家族との外出や馴染みの理容室での整髪等を取り組んでいる。また、ホーム内のレクリエーションも季節に応じた作品作りやテレビ体操、プランターの草花の手入れ、昔の音楽や映像を楽しむ等、工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の許可をいただき、ホームで立替を行い、必要なものや希望された物の購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族には事前に確認を行い、ご本人の希望に沿った手段でやり取りができるように支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場でも過ごしやすいうように光や音、温度、家具の配置など配慮している。ご入居様と一緒に季節の飾りつけを行ったり、親しみのある空間づくりに努めている。また、中庭にも季節の植物を置いている。	ホールや廊下等の共有スペースは明るく余裕があり、テーブルやソファ、テレビ等が動線や利便性、対人関係等に配慮して設置され、園庭（駐車場）にはベンチやプランターも置かれている。毎日の清掃や定時（3～4回）の換気、室温、整理整頓等を徹底し、感染症予防のための手指消毒剤等も設置されており、不快に感じる音や臭いも無く快適に過ごせる環境である。利用者の作品やイベント時の写真、季節感のある花や雛人形等が飾られ、台所からは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的な雰囲気である。利用者は四季を感じながら快適な日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内でも集まって作業や活動が出来る場所と少し離れて静かに過ごせる場所とソファなどの配置を工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビなどを持ってきていただき自分のペースで過ごされたり、写真など馴染みのものなどで落ち着いて過ごせるようにご家族とも相談しながら居室への配慮を行っている。	居室入口には戸惑うことのないように氏名が表示され、室内はフローリングに腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保されている。エアコン、ベッド、クローゼット、タンスが備えられ、過度なケアとならないように利用者に確認しながら清掃や整理整頓等を支援している。利用者は自宅からテレビやラジオ、寝具、位牌、家族写真、ギター等を持ち込み、自身の作品や頂いた品物等も飾るなど、家庭同様に居心地良く過ごせる環境を整えて平穏な日々を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内板やサインなどをつけることにより他者に聞かなくても場所の把握がご自身ででき、自立した生活が送れるように支援させていただいている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない